

平成28年度 総社小学校 学校評価書資料

(A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない)

学校経営目標	具体的計画	本年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策等	達成状況 【アンケート結果】	評価	改善策等	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	①道徳教育、人権教育、だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。	・進んであいさつができていているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…82% 保護者…80% 児童…91%	A	・現状の取組（週目標、児童会の挨拶ボランティア運動、通信等での紹介など）を継続して行う。 ・担任が月初めの週目標で挨拶指導を、目を見ての挨拶、来校者への挨拶など学年や学級の実態に応じて、具体的に指導し、挨拶の質の向上を図る。 ・人間関係づくり部会で、よい挨拶の内容を校内に掲示し、意識付けを図る。	教職員…95% 保護者…84% 児童…92%	A	・現状通り継続して推進するとともに、以下の取組を実施したり、検討したりする。 ・他学年のよい取組を広げていく。また、計画委員会・生活委員会だけでなく、放送委員会なども活用し、地域の方々への挨拶の仕方や意義等の啓発を図る。 ・登下校の安全確保の取組と絡めて、あいさつを地域に広げるための工夫を検討する。	・自己評価は適切である。 ・「よいあいさつの内容を教える」という発想は素晴らしい。あいさつの仕方やタイミングがわからないためあいさつができない児童もいる。掲示することで児童も「よいあいさつ」を意識すると思われるので、継続して取り組んでほしい。 ・あいさつといったマナーの結果は短い期間で出るものではない。あいさつを行うことが当たり前になることが大切なので、教職員・保護者・地域住民といった大人が率先してあいさつを行うことを今後も意識してほしい。
		・思いやりの心をもって生活しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…92% 保護者…93% 児童…94% 児童…84%	A	・現状の取組（ピア・サポート、掃除のペア反省、いじめ防止週間の取組等）を継続して行う。 ・人権週間に合わせて、人権作文を書く。	教職員…100% 保護者…94% 児童…94% 児童…79%	A	・現状の取組を継続しながら、さらに学級内ピアサポートやSELの充実を図る。 ・友達に優しくしているという児童が94%いて、困っていることが減ったために、友達の声かけが減ったのか、質問の意図が伝わっていないのか、アンケート結果だけでは判断が難しい。来年度は、「ともだちがたすけてくれたり、やさしくしてくれたりしてくれる。」にアンケート項目を変更する。	・自己評価は適切である。 ・友達への優しさの項目が高いことは非常に評価できる。これまでの取り組みの成果だと思われるので、改善策にもある学級内のピアサポートやSELをより充実し、発展させてほしい。
2 健康・体力づくり	②健康教育・特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。	・基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…86% 保護者…81% 児童…74% 児童…73% 児童…68%	B	・メディアチェックの取組を継続して推行していくとともに、メディアのルール作りがなぜ必要なのかを児童に考えさせる場を設定する。 ・全校児童を対象に、アンケートを実施し、保健委員会と連携しながら、メディアのルール作りや基本的な生活習慣について啓発を続ける。	教職員…95% 保護者…82% 児童…72% 児童…74% 児童…76%	B	・メディアチェック週間にはできているが、そうでないときにできていない実態が見られたので、メディアのルール作りや基本的な生活習慣の大切さをさらに指導し、児童の主体的な取組を増やしていく。 ・ネットモラルの指導を3年生（場合によっては1,2年生）にも実施し、ネットトラブルを防いだり、ルール作りの必要性を理解させたりする。	・自己評価は適切である。 ・メディアチェック週間の取り組みは引き続き行ってほしい。メディア週間以外でも意識的に生活習慣について考える機会を設けていってほしい。 ・保護者と児童がメディアに関する説明会を一緒に参加することで情報共有ができる。家庭での話題とすることもできるので、今後も継続して行ってほしい。
		・行事などに目標をもって最後まで頑張っているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…97% 保護者…94% 児童…94%	A	・現状の取組（行事前にねらいを伝えること、自己目標の設定、行事後の振り返り等）を継続して行う。	教職員…100% 保護者…96% 児童…95%	A	・現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・各行事が非常に充実していることは、総社小学校の良い点なので今後も継続しておこなってほしい。
3 確かな学力の育成	③協同学習、ICT機器の効果的な活用により、児童が主体的に学習に取り組むとともに、基礎学力も身に付けることができるようにする。	・進んで学習に取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…89% 保護者…87% 児童…86%	A	・現状の取組（デジタル教科書や視覚教材の活用、児童が主体的に学習に取り組めるような授業組立の工夫等）を継続して行う。	教職員…100% 保護者…89% 児童…88%	A	・現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・多くの児童が主体的に学習していることは、先生方の指導のおかげである。引き続き、工夫ある指導をお願いしたい。 ・「ナイスノート」を活用する中で、家庭学習においても児童が自ら「めあて・まとめ」を書く習慣がついていることは、勉強を行う上で非常に大切な習慣づくりができてきていることとなる。今後は一部の児童だけでなく、学校全体として児童が自ら「めあて・まとめ」を記載できる雰囲気づくりを行ってほしい。
		・授業が分かるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…91% 保護者…86% 児童…86%	A	・現状の取組（「めあて」や「まとめ」の明確な授業、思考力や表現力を高める協同学習や書く活動、個に応じた指導等）を実施する。 ・辞書引きを活用し、学習の基礎となる語彙力を伸ばす。	教職員…95% 保護者…86% 児童…89%	A	・現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・授業が「わかる」といった実感は、学習の基礎となる。今後も継続して「わかる」実感を積み重ねることを通して、児童の学習意欲を高めていってほしい。 ・授業中において、各ポイントの指導が、児童の発達段階に合わせた話し方や提示を行っている。こういった教員の工夫が児童の理解につながるので、これからも意識的に行ってほしい。
		・国語と算数の単元テストで80点以上の児童が、80%以上である。 (教職員)	教職員…67%	C	・達成基準に満たない要因（テストの答え方が分からない、表記ミス、不正確な記述、図や絵などにする思考力不足）から、方策（答え方の指導やテストの解説、再テストによる定着等）を実施する。	教職員…61%	C	・これまでの取組は継続する。 ・指導の効果はあったが、2学期は児童が苦手とする領域が多かったため、数値として十分な達成状況にならなかった。児童の達成状況に二極化も見られるため、補充学習として金曜日の朝学を活用するなどの工夫をする。より個に対応するため活用力の向上を図る総チャレを3年生以上では習熟度別にすることで検討する。また、学年団で実態把握やテストを分析し、つまづきやすい内容を復習したり、指導方法の改善にあてたりする。 ・達成基準の妥当性については、実態把握やテストの分析により、今後検討していく。	・自己評価は適切である。 ・これまでよりも高い目標設定を行い、達成ができていない現状についてなぜできていないのか、それをどう改善するかを学校が分析を行っていることは非常に大切なことである。今後も自信をもって継続して取り組んでいってほしい。 ・一律80点以上というこれまでより高い達成基準を設定したことで、達成状況が下がっているが、これは平均点で見えない問題を打開するべく行っており意義深い。実際には、児童は県・市のテストの結果によると学力をつけており、教員は教員研修を通して指導力を高めている。

(A:達成している B:概ね達成してい C:あまり達成していない D:達成していない)

学校経営目標	具体的計画	本年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策等	達成状況 【アンケート結果】	評価	改善策等	自己評価の適切さ
4 開 か れ た 学 校 づ く り	④各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。	・学校から積極的に情報発信が行われているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員…77% 保護者…93%	A	・学年便り、校長室便り、保健便り、図書便り等現状の取組を継続して行う。 ・学年でのホームページの更新を2ヶ月に1度程度できるように、ホームページ担当者同士で声を掛け合い、何を載せるのかを決めて10月までに作成する。	教職員…93% 保護者…93%	A	・現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・HPの更新は定期的に行われている。しかし、より細かい学校の情報を知りたいことから、更新のスパンを短くしてほしい。 ・保護者は日常の様子を知りたい。HPや紙面のどちらでもいいので、発信をし続けてほしい。 ・学校が知らせたいことを示すだけでなく、保護者が知りたいことを発信することも大切である。保護者が知りたいことを集約し、学校に伝える役目はPTAが担うので、情報の中身について学校とPTAが連携してほしい。
	⑤家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安心・安全を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。	・登下校時の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員…84% 保護者…86%	A	・登下校時の安全をさらに高めるために、担任が個別の指導を図る。 ・学校支援ボランティア等、保護者や地域の方の協力をさらに得ながら、地域連携担当者が大勢の目で児童の登下校を見守る体制づくりを構築していく。	教職員…93% 保護者…87%	A	・児童の下校時刻に合わせた学校支援ボランティア（犬の散歩や農作業など）の協力依頼を学校から文章で地区の方に出すことを検討する。 ・地区担当が様子を把握できるように、校外の見守りに関して検討していく。	・自己評価は適切である。 ・学校として登下校の安全確保は行っている。また、一部の地域で保護者が要望した通学路の改善が達成している場合がある。しかし、こういった情報が保護者全体に周知されていないことは課題なので、「安全ニュース」として広報活動を検討してほしい。 ・学校ボランティアの活用状況についても引き続き発信してほしい。
		・学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…91% 保護者…64% 児童…86%	B	・家庭学習の時間を記入する欄を設けた「がんばりカード」などに、継続して取り組む。 ・保護者アンケートは「声かけしている」となっているが、声掛けしなくてもできている場合もあるので、アンケートに「声かけしなくてもできている場合はできているに○を」の一文を加える。 ・学力向上担当で、家庭学習強化週間（案）をつくって、保護者の意識付けを図っていく。	教職員…100% 保護者…74% 児童…88%	A	・がんばりカードに家庭学習の時間を記入したり、家庭学習強化週間の取組をしたりしたことによって、成果が出ている。現状の取組を継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・継続は力となるので、学年×10分+10分勉強は評価できる。 ・がんばりカードがあることで、学習習慣が意識できるので、今後も継続してほしい。 ・「ナイスノート」を貼り出すことにより、自主勉強の方法を児童同士が確認し合い、保護者も確認することができた。自ら「めあて・まとめ」を記述している児童の取り組みが浸透してほしい。
	・家で読書を行っているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…81% 保護者…71% 児童…79%	B	・現状の取組（家読カード、家読週間、学活や図書の時間で、本の紹介やよみきかせをすることなど）が充実しているので、継続して取り組むとともに、児童に家で本を読むように声掛けをしていく。 ・保護者アンケートは「声かけしている」となっているが、声掛けしなくてもできている場合もあるので、アンケートに「声かけしなくてもできている場合はできているに○を」の一文を加える。 ・学級通信や懇談などで家読を推奨する。	教職員…92% 保護者…71% 児童…79%	B	・家読については、メディアコントロールに重点を置いて家庭に呼びかけているため、家庭での意識が薄くなってきている現状がある。現状の取組を継続するとともに、今後家読とメディアコントロールをより関連づけた啓発を図っていく。	・自己評価は適切である。 ・本を読むことは読解力を培うことにつながる。一人当たりの図書の貸し出し冊数や平均数も増加しているは素晴らしい。 ・学校だけで読書習慣をつけることには限界があることから、家庭と連携して家でも読書する習慣を身につけてほしい。	